

平成28年度  
小規模多機能型居宅介護 サービス評価  
～ 事業所自己評価 ～

ケアホーム笛吹の里

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 10 日
------------------	-----	------------------

1. 初期支援（はじめのかかわり）	メンバー	柳本、丸山、村木、今井、梨本、廣田、瀬下
-------------------	------	----------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組めましたか？	2	12	1	0	15（15）

前回の改善計画	
<p>施設でのミーティング以外で、これまで、事前面談や担当者会議の開催、関係機関との連絡は主として管理者（兼ケアマネ）が実施していたが、あらかじめ予定することができる会議等においては介護職員も参加し、利用者が普段どのような思いを持ち、サービスを利用しているのかを関係者に直接伝え、また、利用者を自宅でみている介護者の「気持ち」に触れたり、利用者が現在おかれている状況を介護職員が直接確認できる機会をつくることで、現状を把握したうえで、より「利用者の気持ち」に沿った支援が提供できると考えている。</p> <p>初期支援においては、事前面談時に介護職員ができる限り同行し複数職員で状況確認をすることで利用開始後もスムーズな支援、サービス提供が行えるようにする。利用開始後 1 ヶ月を目途に計画の見直しを行い、家庭状況や「利用者の気持ち」に沿った適切なサービス利用を提案、実施できるように努める。また、初期対応用の記録用紙を作成、活用し、情報共有がスムーズに行えるようにする。</p>	
前回の改善計画に対する取組み結果	
<p>事前面談時から介護職員や看護職員が同行し聞き取りを行うことで生活状況の把握や情報共有がしやすくなった。利用される側にとっても「見たことがある顔」が増えることで安心する様子がうかがえた。新たに初期対応用の記録用紙を作成すると計画したが、既存のアセスメント表や介護記録用紙を活用することとした。日々の関わりの中で得た情報を細かく記録することはできたが、情報を整理しそれを十分に活かした支援内容の見直しまではできなかった。</p>	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	利用者の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	3	11	1	0	15（15）
②	ミーティングにおいて、かかわりの初期の目標を共有できていますか？	2	11	2	0	15（15）
③	利用者がまだなれていない時期に、訪問や通いで、声掛けや気遣いができていますか？	2	12	0	0	14（15）
④	初期の目標を念頭においたケアができていますか？	1	7	7	0	15（15）

できている点
<p>利用開始前の事前面談から管理者以外の職種が参加することで生活状況の把握や情報共有が昨年よりもしやすくなり、利用開始時からある程度統一された援助ができています。利用者、職員が互いに慣れていない段階である為、関わる時間を増やすことで状況把握や関係構築に努めた。</p>

できていない点
<p>職員が関わりの中で得た情報の記録は細かくできているが、利用開始から 1 ヶ月程度経過した後の再検討が不十分であった。せっかく得た情報も個々では確認するが、それを整理したり、十分に活かした対応に繋げる検討ができなかった。また、利用者本人との関わりが増える一方、家族から話をうかがう機会が少ない介護職員の中には、本人が望んでいる事と家族の意向の差の大きさにジレンマを感じる職員もいた。家族や関係者を含めた話し合いの場がもっとあるとより良い支援に繋がるのではないかな。</p>

次回までの具体的な改善計画
<p>利用開始からしばらくの間、訪問回数を増やす等厚めにサービス提供を行っているが、その間に得られた情報を整理し、利用者が必要とする支援内容についての再検討をミーティング時に行う。利用開始から 1~2 ヶ月を目途に再度本人、家族を含めた担当者会議を開催する。</p>

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 10 日
------------------	-----	------------------

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	柳本、丸山、村木、今井、梨本、廣田、瀬下
------------------------	------	----------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	10	3	0	14 (15)

前回の改善計画
<p>利用者の個別検討が表面上で終わることなく、利用者の「～したい」という目標が達成された姿、状態をイメージし、そのイメージを職員全員が共有しながら支援内容について検討していく。日々のかかわりの中で得た情報、気づきを話し合い、目標達成状況や支援内容を適切に評価し、適宜改めていくという流れがごく当たり前に行えるような体制をつくる。</p>

前回の改善計画に対する取組み結果
<p>利用者毎に担当する介護職員をつけ、毎日のミーティング時に計画的に利用者個別検討を行うことが習慣づけられた。取り組みを継続するうちに職員それぞれが関わりの中で得た情報や気づきを話すようになり、それに沿った支援内容の検討が行われるようになったが、まだ十分に機能しているとは言えない現状がある。</p>

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	0	9	5	0	14 (15)
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	10	3	0	14 (15)
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	6	7	0	14 (15)
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	2	4	5	0	14 (15)

できている点
<p>ミーティング時の個別検討で「本人の目標」を把握している。それぞれが日々のかかわりの中で気付いたことを意見し対応を検討している。話し合いや個別記録で自分では気付かなかった情報を知る事もあり、いろいろな話をしてみよう意識して利用者に関わるようになった。</p>

できていない点
<p>PDCA サイクル (計画→実行→評価→改善) が形の上では行われるようになったが十分に機能しているとは言えない現状がある。利用者の「～したい」がわかっても現状はそれを実行できる人員配置でない為、家族等の協力を得る必要が、リスクがあれば現状維持を望まれることも多く、難しいと感じることがある。もう少し利用者との1対1のかかわりが持てると良いと思う。</p>

次回までの具体的な改善計画
<p>大きな目標を目指す前に達成できる目標から取り組む。「できた」を家族を含め関係者全員が共有し、次の目標に繋がられるような働きかけを行う。 職員配置や業務内容を見直し1対1の対応ができる体制を作る。</p>

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 12 日
------------------	-----	------------------

3. 日常生活の支援	メンバー	今井、星野、小島、長谷川、村木、廣田、瀬下
------------	------	-----------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	10	2	1	14 (15)

前回の改善計画	利用者の気持ちや以前の暮らし方についての情報収集が以前に比べればできるようになってきたが、来年度においても、「以前の暮らし方の把握」を再度目標とし、職員一人が 2~3 個ずつ聞き取り、まとめて、利用者の理解を深め、今後の支援内容に組み込んでいく。利用者以外の家族や地域の方とのコミュニケーション不足を介護職員それぞれが感じているため、担当者会議への参加や互いに話し合いができる機会を設ける。
前回の改善計画に対する取組み結果	利用期間の長い利用者に対して、改めて生活歴や以前の暮らし方を強く意識しそれをもとにした支援内容を検討するという意識が薄かったと思う。日々の関わりの中で得た情報をまとめれば、10 個以上以前の暮らし方を把握することはできると思うが、共有がすすまなかった為、把握できていないと答えた職員が多かった。送迎時に家族とかかわろうと意識して話をしたり、担当者会議に参加したりする等、介護職員が家族とコミュニケーションをとる機会も増えてきているがまだまだ足りない。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?	1	4	8	1	14 (15)
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	4	10	0	0	14 (15)
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	9	4	0	14 (15)
⑤	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2	10	3	0	15 (15)
⑥	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	13	0	0	15 (15)

できている点	本人の気持ちをできるだけ尊重し、体調の変化に気付いた時はその都度職員間で共有した。必要により、家族、担当医とも連携し支援している。介護職員も担当者会議に参加し家族と話をすることが増えてきている。支援していた内容を本人の自立や家族の関わりによって減らすことができたケースもある。何でもやるのではなく、本人ができることは自分でやってもらい、できない事でも一部を支援することで本人の自立を促したいと考えて対応するようにしている。
--------	---

できていない点	関わり得た情報の記録は増えたが、情報を整理し、共有することがうまくできなかった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	アセスメント表を共有しやすい書式に見直し、追加項目があれば記録できるようにする。生活歴や関係把握の為の記入欄を増やす。ケアプラン作成や見直しの際の過程も介護職員が共有できる形で実施する。利用者本人がどのような生活を望んでいるのか、改めて確認し必要な支援を考えていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 12 日
------------------	-----	------------------

4. 地域での暮らしの支援	メンバー	今井、星野、小島、長谷川、村木、廣田、瀬下
---------------	------	-----------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	9	4	0	14 (15)

前回の改善計画	日々の連絡、送迎時の会話や担当者会議への参加で介護職員においても、家族との関わりをこれまで以上に深めていく。利用者の自宅での過ごし方や近隣住民との関わりを把握し、地域の情報も得ていく。はじめは身近な家族から。徐々に範囲を広げて、社会資源の活用を踏まえた利用者にとって、より良い支援内容の検討、提案する。
前回の改善計画に対する取組み結果	意識的に家族や関係者とも関わりを持とうと働きかけ、短い時間であっても積極的に声をかけている職員もいた。担当者会議に介護職員が参加し、直接家族の意向を聞く機会も徐々にではあるが持てるようになった。地域での暮らしを継続する為に町内の方や小学校校長、駐在所の方にも参加いただいた会議を開き、地域の方の協力を仰いだ事例もあった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	0	9	5	0	14 (15)
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	0	11	1	1	14 (15)
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	4	9	0	14 (15)
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	5	6	3	14 (15)

できている点	意識的に家族とコミュニケーションをとるようにしている職員が増え、得られる情報も増えている。民生委員、町内会や学校、駐在所等、地域の方を交えた担当者会議を開催し、地域の方から協力いただくことで在宅生活を継続している事例もある。独居の方、普段から訪問サービスを利用している方に対しては、自宅での過ごし方や近隣の方との関わりについての情報を得られており、それをもとに様々な可能性の検討もできている。訪問サービスでの関わりが多い方は地域の方や家族と職員も接することが多く地域での生活にあった援助ができているように感じる。
--------	--

できていない点	長く利用されている方、泊まりや通いの利用が中心で地域との接点がないまま利用を続け施設と自宅の往復で終わってしまう利用者もいる。以前からの流れの中で、変化を望まない、新しく何かに取り組む意味が見いだせない方もいる。そういう方に対し、こちらから地域に積極的に関わっていくことがあまりなかった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
地域資源をうまく活用している事例を参考にし、本人、家族からも改めて以前と現在の生活スタイルや人間関係についての聞き取りを行ったり、事業所が地域へ積極的に関わったりすることで利用者が生活する地域での生活を支えるという意識を持ってもらえるように働きかける。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 18 日
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	水落、柳本、長谷川、丸山、武田、梨本、前山、瀬下

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	11	2	0	14 (15)

前回の改善計画	施設利用時ばかりでなく、在宅時の暮らしの把握に努める。施設利用が多い方は、地域の方や家族との関わりを多く持ってもらいたいという思いがある。家族とのコミュニケーションを密にとり、相談を受けたり、話し合いの場やともに利用者の支援を考えていく機会をさら増やし、理解や協力体制を築いていく。小規模多機能型の「多機能性」を活かしたサービスを提供していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	担当者会議に参加し、利用者家族から直接話をうかがう機会が増えている。自宅での生活状況や生活に対する意向を改めて確認している。利用者の介護について悩んでいる家族も多く、他事業所や施設入所も含めた助言を行う事もある。地域からの協力を望まれない方もいるので、積極的に地域資源を活用するよう働きかけることはしなかった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	4	8	1	14 (15)
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	4	10	0	0	14 (15)
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	6	8	1	0	15 (15)
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	5	9	0	1	15 (15)

できている点	民生委員や地域住民、以前からの友人の見守りや協力、シルバー人材センター、ゴミ出しヘルパー等事業所以外の地域資源を活用した支援事例もある。日々の関わりや記録から変化に気づき、その時の状態にあわせた柔軟なサービス提供ができている。
--------	---

できていない点	地域との連携、情報共有ができていない。地域を巻き込んだ「多機能性」のある支援が全体ではまだまだできていない。利用者本人との関わりが増える一方、家族から話をうかがう機会が少ない介護職員の中には、本人が望んでいる事と家族の意向に大きな差があり家族優先のサービス提供に重きを置いているのではないかと疑問に思っている職員がいる。家族や関係者を含めた話し合いの場がもっとあるとより良い支援に繋がるのではないかと。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	地域資源をうまく活用し、多機能性のある支援ができるように積極的に地域働きかけていく。利用者の「良い変化」にも注目し、家族も含めて喜びを共有することで次の支援に繋げていく。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 18 日
------------------	-----	------------------

6. 連携・協働	メンバー	水落、柳本、長谷川、丸山、武田、梨本、前山、瀬下
----------	------	--------------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	6	7	2	0	15 (15)

前回の改善計画	現在ある小学校や保育園、ボランティア等の交流は今後も継続、強化し、利用者や施設関係者以外にも、施設に足を運んでいただけるよう取り組んでいく。納涼祭、敬老会等の行事、腰痛予防研修や「ふえふき喫茶」などの企画のみでなく、一昨年より地域の団体と一緒に参加させてもらっている民謡流しや花ロード等の地域イベントにもすすんで参加したい。
前回の改善計画に対する取組み結果	今年度も納涼祭には多くの方から参加していただくことができた。7月から利用者、職員がともに取り組んだ作品を城下町高田花ロードに出展しフラワー賞をいただくことができた。近隣町内で行われるイベントに参加する等、少しずつではあるが、施設に来てもらうだけでなく施設から出向いて参加する事も増えてきている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	2	5	0	5	12 (15)
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	1	2	1	7	11 (15)
③	地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?	1	7	4	2	14 (15)
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	1	8	2	3	14 (15)

できている点	多職種が参加する担当者会議に介護職員も参加し有意義な意見交換が行われ良い経験となっている。一人暮らしの方を中心に定期受診に立ち会う等、医療機関との連携はよくとれていると思う。高田で開催された花ロードに出展したり、町内イベント (映画観賞会) 等にも参加したりすることができた。施設で開催した行事では直接施設と関わりのない方にも参加していただき、地域の交流の場となっている。自衛消防訓練を年 2 回以上実施し地域住民から参加いただいた。利用者からの紹介で利用の相談に来られる方もいた。
--------	---

できていない点	地域行事の情報収集が乏しく、こちらから出向いてイベントに参加する機会が少なかった。地域への働き掛けも不足している。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	運営推進会議を活用し町内行事について情報収集を図る。利用者が生活する地域においては、その家族や町内会に話をうかがう等、積極的に地域へ関わりをもち情報収集に努め、少人数でも参加できるように職員体制を整えて行く。また、家族や関係者の協力も仰ぎながら利用者が楽しく参加できるように努めて行く。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 20 日
------------------	-----	------------------

7. 運営	メンバー	水落、星野、丸山、村木、武田、星野、廣田、瀬下
-------	------	-------------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	7	4	2	14 (15)

前回の改善計画	「小規模多機能型居宅介護」とは、どのような施設で、どのような役割や特徴を持ち、どのような利用の仕方があるのか等、ケアホーム会議で勉強会や研修を行い、職員の理解を深めていく。小規模多機能型居宅介護施設のあり方を理解した上で笛吹の里がどのような運営を行っていくべきか、自身の意見が言える職員の育成に努める。利用者家族、地域住民からの意見も、日々の関わりやアンケートの実施、運営推進会議等を活用してうかがい、より良い運営に繋げるための話し合いを定期的に行っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	「小規模多機能型居宅介護」についての改めて学ぶ機会を設け理解を深めることができた。笛吹の里が社会福祉法人としてどのような取り組みを行っていくのか、地域の方の意見を参考にしながら運営推進会議で話し合いを行った。利用者アンケート調査の実施や利用者、家族、地域の方からの意見や苦情は真摯に受け止め、今後の対応や改善策、より良い運営につなげるための話し合いを随時行った。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	0	6	4	4	14 (15)
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	3	6	1	2	12 (15)
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	3	3	4	12 (15)
⑦	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	0	5	3	5	13 (15)

できている点	小規模多機能型居宅介護とはどのようなサービスであるかを再確認する為の勉強会を開き、会議の参加者や職員の理解を深めることができた。利用者アンケートを実施し、ケアホーム笛吹の里ではどのような取り組みをしているか、どのようなサービスを提供しているかを伝えることができた。また、社会福祉法人として地域の困りごとに対しどのような支援ができるのかを検討したり、地域の相談窓口としても活用いただきたい旨を伝え、実際に相談に来られた方もいた。いただいた苦情や意見について職員全体で確認し改善に向けた話し合いが行われた。
--------	---

できていない点	他事業所との情報交換や交流機会があまりない。ケアホーム会議での勉強会が計画的にできなかった。より働きやすい職場環境を作っていくための話し合いがされず業務改善に取り組めなかった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	法人理念「笑顔あふれる毎日」を実現する為、ケアホーム職員の共通目標を設定する。ケアホーム会議で経営状況を随時報告し、職員全員で共有することで経費削減に取り組み、モチベーションを向上させ、より良い環境づくりに向けた話し合い、業務改善を図っていく。
---------------	--



事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 1 月 19 日
------------------	-----	------------------

8. 質を向上するための取組み	メンバー	今井、星野、小島、長谷川、村木、廣田、瀬下
-----------------	------	-----------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2	7	6	0	15 (15)

前回の改善計画
今年度は毎月開催しているケアホーム会議の内容を見直し、これまでケアホーム会議で行っていた利用者個別検討は、現在、毎日のミーティング時に行っています。これにより空いた時間を活用して、外部研修の伝達や内部研修とは別の小規模多機能型居宅介護に関連する研修を計画的に実施します。リスクマネジメントについては、施設全体ではヒヤリハット報告 300 件の目標は達成されたが、ケアホーム単独で見れば提出数が少ない現状があるため、来年度はヒヤリハット年間報告数をケアホーム単独で 100 件を目標とし、職員全体が意識して取り組むことで事故発生件数を減らしたい。
前回の改善計画に対する取組み結果
年度初めのケアホーム会議で小規模多機能についての勉強会を開催し職員の理解を深めることができたが、それ以降、ケアホーム独自の勉強会、研修を行うことができなかった。 ヒヤリハット報告数年間 100 件を目標として取り組み、早い段階でこれは達成された。ただ出せばいいということではなく、気付く力を養う為の取り組みだったと振り返る。今年度、重大事故の発生はなかったが、同内容の事故・ヒヤリ報告書があがる等、報告後の対策の検討、評価が十分ではない。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	2	7	2	4	15 (15)
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	6	4	4	15 (15)
③	地域連絡会に参加していますか	0	2	2	8	12 (15)
⑧	リスクマネジメントに取り組んでいますか	3	7	3	2	15 (15)

できている点
業務都合により内部研修への参加人数が少ないが、不参加の職員には資料を配布する等各自で学習を行っている。外部研修は研修一覧を職員が回覧し、職員が希望する研修やその役割に沿って参加し、内部研修時に伝達講習を行った。また、資格取得やスキルアップのための研修等に個人的に参加する職員もいる。リスクマネジメントについての取り組みでは、目標としたヒヤリハット年間報告数 100 件を早い段階で達成することができた。

できていない点
上記通りリスクマネジメントについての目標は達成されたが、同内容の事故・ヒヤリ報告があがる等、その後の取り組みや評価が十分ではない。 ケアホーム会議で質を向上するための研修を行うと計画したが継続して行うことができなかった。 内部研修に参加する職員が少ない。

次回までの具体的な改善計画
毎日のミーティングと月 1 回のケアホーム会議の目的を明確にして開催する。 ミーティングは利用者毎のより具体的な支援内容や事故・ヒヤリ発生時の対応策やその評価についての検討を主に行い、ケアホーム会議は業務改善についての話し合いや質向上のための勉強会や事例検討会を行う。内部研修への参加人数を増やす。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 29 年 1 月 20 日

9. 人権・プライバシー

メンバー 水落、星野、丸山、村木、武田、星野、廣田、瀬下

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0	10	1	0	11 (15)

前回の改善計画

前回から解決されていない点や今回新たに上がった「できていない点」を改善していく。今回の振り返りを機に「個人の目標」「チームの目標」を明確にして、ひとつひとつをしっかりと取り組み、ケアホーム会議の場で定期的に評価していく。言いたいことが言える、改善に向けた「話し合い」がいつでもできる風通しの良い職場環境を築き、最終的にはチームケアの質の底上げにつながるということ意識して取り組む。

前回の改善計画に対する取組み結果

今月の目標を設定し、目のつくところに掲示して常に意識して取り組めるようにした。不適切ケアを行わないように職員それぞれが意識して取り組んだ。ケアホーム会議で「言いたいことを言う」機会を設け話し合いを実施して以降、徐々に「話し合い」のできる職場環境になってきたと思うが十分ではない。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	8	5	0	0	13 (15)
②	虐待は行われていない	9	4	0	0	13 (15)
④	プライバシーが守られている	7	4	2	0	13 (15)
⑤	必要な方に成年後見制度を活用している	2	1	1	6	10 (15)
⑨	適正な個人情報の管理ができている	5	7	0	0	12 (15)

できている点

在宅中にご家族の希望でつなぎ服を着用している利用者がいるが、施設利用時にはすぐに着替えて身体拘束のない状況で対応している。成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用している方は現在いないものの、当事業所ができる範囲で金融機関や配送業者と連携し利用者の不利益にならないように対応している事例がある。

できていない点

職員それぞれが不適切な対応、言葉、行動の見直しや改善に取り組み、職員同士で「おかしい」と思ったことを話し合ったり、不適切な対応があれば即座に注意したりすることが徐々にできるようになってはいるがまだ十分ではない。

次回までの具体的な改善計画

「自分がされて嫌だと思ふことはしない」個人が意識して取り組むとともに、他職員の言動にも注意して「おかしい」と思ったことはその場で注意し、適宜改善に向けた話し合いを行う。

